

医療法人恵生会 南浜病院

2015-2016 Annual Report



ご挨拶

年報を発刊出来ましたことは大変な喜びです。

南浜病院では長期入院患者が高齢化し、年間20人前後が死亡退院しています。これまで入院患者数のベースとなった長期ベット利用者が欠け、結果として入院患者数が減少していきます。そして新規入院患者は、ほぼ3か月以内に退院しますので、必然的に入院総数はさらに減少の一途をたどっています。これは当院だけの問題ではなく、全国の精神病院の問題でもあります。日本精神科病院協会雑誌：2016年35巻3号に「精神科入院医療の方向と適正規模について現状把握を試みる」という特集が生まれ、各病院が経営に苦勞している状況がよくわかります。その中で南山会峡西病院、川崎光洋理事長の「病床数が半分になっても怖くない」という題名に目を引かれました。約30年の間で300床から約半分の170床になり、さらに今後も減少してゆくだろうと推察しているのです。それでも黒字経営を行っています。ただ単に長期入院患者の退院促進をした結果に過ぎないとのことですが、相当の経営努力をされたのだと推察できます。その一方で、病院単体で30年間数千万から一億円の赤字を抱えつつ、関連施設の収益により経営が成り立っている法人もありました。「自分達もここで何らかの策を講じる必要があると理解していながら何も見いだせないまま苦慮している。」と語っています。

このように今や何もしないで患者数を確保できた時代は終わったのです。この中でいかに収益を上げるかが課題ですが、収益をあげることは理論的には簡単です。患者に来ていただける病院作りと診療報酬の高い病棟編成、地域の中で進んだ医療を提供していくことです。と同時に人件費をいかに抑えるかがポイントになります。

一般的な企業と違って病院の人件費は費用の中で60%から70%占めています。これは一般企業であったら倒産に至る人件費率です。このように病院の経費のなかで人件費が大きな部分を占めてしまうのは、診療報酬に叶った職員配置基準を満たすために、多種類の専門資格を持つ職員を雇用しなければならないことが一つの要因になっているからです。そしてこれらの資格者を集めるには労働条件を優先しなければ確保が出来ませんので、この費用を削ることはできません。その他の費用削減を考えなければなりません、それが難しいだけに頭を悩ませています。

最後になりますが、精神医療はこの10年間に入院から地域への移行が進められました。精神科病院の経営は苦難の途上にありますが、しかし、このような苦しい状況のなかにあっても、国の施策や地域住民の要望に応えながら安定した病院経営を行いたいと思っております。

平成28年11月

医療法人恵生会

理事長 鈴木好文